

ここから  
三豊から  
一步を踏み出そう

特集

# 三豊で

# 起業する

平成26年1月20日、日本経済の再生と産業競争力を強化する目的で施行された産業競争力強化法。  
この法令に基づき、市では平成26年7月に、創業の促進を目的として、「創業支援事業計画」を策定し、起業を支援するさまざまな取り組みを行っています。  
今月は、三豊で**起業**した人たちに注目します。



## ま〜がれっと通信

三豊市を マーガレットでいっぱいしよう

10月号のマーガレット通信で紹介した小さな小さなマーガレット。あれから2カ月経ちました。ワクワクしながら見に行ってみると…。なんと！咲いています。数は少ないですが、きれいな白い花を咲かせています。

農家の人に話を聞くと、「100本単位で出荷するきん、本格的に市場へ出荷し始めるのは、12月に入ってからかなあ」とのこと。ということは、もうすぐお店に並ぶのかなと思っていると、「でも、行き先は関西や関東やで」…。

市内で見かけるのはもう少し先そうですね。



三豊市の人口 ※平成27年11月1日現在 ( )内は前月比

世帯数 23,344 世帯(+34) 総人口 65,418 人(-48) 男 31,170 人(-5) 女 34,248 人(-43) ※香川県人口移動調査による

広報 **みとよ** 12月号 目次  
平成27年 contents

- 3 特集 **三豊で起業する**
- 8 **市民対話集会**
- 10 **M's Information みとよ暮らしのおしらせ①**  
叙勲・危険業務従事者叙勲・秋の褒章・総務大臣感謝状 / 紙類・布類の持ち込み回収 / 県海岸保全基本計画変更パブリックコメント / さぬき若者サポートステーション / 年末年始業務のお知らせ / マイナンバー制度
- 14 **みとよHOT ほっとNEWS(ホットニュース)**
- 16 **M's Information みとよ暮らしのおしらせ②**  
国民年金 / がん検診 / ワクチン接種副作用被害の救済 / ジェネリック医薬品 / 飲酒の適量 / 社会体育施設利用希望調査 / 税務署からのお知らせ / 償却資産の申告 / 軽自動車税税率変更 / 子育て支援の補助制度
- 21 **M's 深読みひろば**  
じんけん探訪 / みとよ Safe & Peace
- 22 **12月のお知らせ**  
募集 / 相談 / 講座 / 教室 / イベント / 納税のお知らせ / マリンウェーブ情報 / 国際交流協会
- 25 **保健・相談**
- 26 **ここ笑み通信 ~子育てするなら三豊が一番!~**  
市放課後児童クラブ入会のご案内 / 発達障がい無料相談会 / M's Smile ふおとぎやらりい / 乳幼児健診 など
- 28 **みとよ写真帳 / 編集後記**

## 表紙 今月の市民力



今年6月、市内の一般女性14名からなる消防団女性部が発足しました。これまでの主な活動は、市震災対策訓練への出勤、他市の消防団女性部との意見交換、火災予防キャンペーンへの参加など、地域の防災力向上に努めています。  
「操法大会の見学や礼式訓練を体験して、消防団員としての規律と厳しさを肌で感じました」と話すのは、女性部長の岩本仁美さん。  
岩本さんは「発足してまだ半年足らずですが、女性の視点で防災に向き合っていると、男性団員が今日まで培ってきた地域防災力を補うかたちで、私たち女性だからこそできる役割が少しずつ見えてきました」と言います。「若い女性が団員に加わり、幅広い年齢層から意見が出てくると活動の幅も広がります。まだまだ手探り状態ですが、みんなで力を合わせ、地域の防災の一助になれるよう頑張ります!」と力強く抱負を語ってくれました。  
今後は、幼稚園や保育所などの幼児を対象とした防災劇の上演のほか、AEDの指導者としての活躍が期待されています。市民全員で応援していきましょう!



オスモティックジャパン  
代表取締役 北野優旗さん

# 創業者に 聞く

## 市の制度を活用して 製品開発

考案したアイデアを製品にするため、北野さんは県の発明協会に相談しました。自分のアイデアと類似する特許がないことが絶対条件なので、知的財産権取得についてアドバイスを受けました。その結果、類似する特許がないことを確認し、「三豊市知的財産取得支援補助金」を活用して特許を出願。無事取得することができました。



受けながら製品化に成功しました。「本業の整体を続けながらの製品開発だったので、想像を超える忙しさでしたね。たくさんの方の協力や家族の理解と支えがあったからこそ生まれた製品です」

## 三豊から世界に発信

現在、結婚して3児の父親の北野さん。「整体を受けに来る患者さんとの会話の中で、『孫が高校を卒業して県外に行くんよ。多分そっちで就職するんやろねえ』という話をよく聞きます。優秀な人

平成26年9月、株式会社オスモティックジャパンを創業し、〇脚を改善して骨盤を引き締める効果のある器具「スタイルアップレグール」を開発。そして平成27年度の三豊市ものづくり大賞を受賞した代表取締役の北野優旗さんにお話を伺いました。

## 会社員から整体の道へ

北野さんは、豊中町出身で、高校を卒業後、県外の大学に進学。大学ではスポーツ健康学部を専攻していましたが、いろいろな経験がしたいと、東京のIT企業にシステムエンジニアとして就職しました。

「就職して2年くらいたったころ、都会のあわただしい毎日に、『今の仕事は自分に合った仕事なのか』と真剣に自己分析しました。そのとき、本当は自分で道を切り開ける仕事をしたいたいと気づいたんです」

北野さんは2年間務めた会社を辞め、以前から興味があった整体の専門学校へ

材が次々と市外へ出て行く現状をなんとかしなければなりません。私は、若者たちが故郷で働きたいという希望が持てるよう、三豊から日本、そして世界に向けて発信できる事例になりたいと思っています。」と、力強く話してくれました。



通いました。

「前の会社での蓄えを全て専門学校の入学金に充てました。生活環境は以前とは比べものにならないくらいひどくなりましたね。昼間は日雇いの仕事をして夜は学校という毎日で、本当に生活するのもやっとでした」

1年間がむしゃらに勉強し、整体の知識と技術を習得すると、すぐさま帰郷し、実家の一部を利用して整体院を開業しました。当時、整体院としてはまだ少なかったホームページで情報を発信したところ、県内から問い合わせが相次ぎました。経営も本格的に軌道に乗り、実家の隣に施術所を構える

ことができました。  
**〇脚で悩む人を  
なんとかしてあげたい**

整体院に来院する患者さんで、日頃の姿勢の悪さから〇脚になり、腰痛を発症するなど、スタイルに悩みを抱えている女性は少なくありませんでした。

「当初、〇脚で悩む人にはタオルやゴムバンドなどを使った運動を勧めていましたが、運動するための準備に手間がかかり、途中で断念する人もいました。そこで、もっと手軽に取り組める方法はないかと、器具（スタイルアップレグール）を考案したんです」

## みとよ創業塾

市が策定した創業支援事業計画に基づき、事業を実施するのが創業支援事業受託者の市商工会です。

市商工会は、創業支援の窓口設置や起業についての相談対応、利子補給事業などをを行っています。なかでも注目したい取り組みは、市内で起業を考えている人、創業後5年未満の人を対象

に行う「みとよ創業塾」です。みとよ創業塾は、平成26年8月に始まった創業支援セミナーで、これまで68人が受講し、8人が創業しています。

## 事業計画を立てる

「本セミナーを受講することで、創業に向けた心構えや成功のポイント、資金計画、会計・税務に関する基礎知識などを学ぶことができます。そして、本セミナーをより有意義なものとするためには、しっかりとした事業計画を持つておくことが大切です」と椎野さんは言います。

「自らが計画を実現できる根拠を持てるまで、何度も精査を繰り返して、事業を継続する上での課題や問題点を明らかにします。事業計画を立てる際には無料でご相談に応じます。ぜひ市商工会までご連絡ください」

# 起業を支援する



起業家からの相談を受ける  
市商工会指導課長 椎野貴士さん



セミナーの様子

セミナー受講で  
有利な支援も

- セミナーを受講することで、次の優遇措置を受けることができます。
- ① 株式会社を設立する際の登録免許税が半額に
  - ② 無担保、第三者保証人なしの創業関連保障枠拡大
  - ③ 創業関連保障の特例が、事業開始6カ月前から利用の対象に
  - ④ 県実施の創業支援補助金に加点

つながりを大切に

受講生同士は、互いにSNSで情報交換しています。仲間として問題を共有し、アドバイスを送ることで、問題解決につながっています。また、仲間たちの近況を知ること、「自分も頑張らない」と、創業に向けての意欲の向上にもつながっています。

次回のみとよ創業塾は平成28年2月に開催します。

▼問い合わせ 市商工会 ☎72・3123



パンと喫茶のお店  
カフェルポ(詫間町)  
白川恵子さん

セミナーで学ぶこと  
全てが今の仕事に生かされています

詫間町出身の白川さんは、調理の専門学校を卒業後、岡山県の料理教室でパン作りや調理の講師として5年間勤めてきました。

「小学生のころ、通っていた料理教室の先生に憧れて、料理が好きになったんですよ」と、料理の道を志したきっかけを話してくれました。

料理の仕事を始めたときから、いつかは自分のお店を持ち、料理を通じてみんなに幸せな気持ちになって欲しいという思いがあったそうで、今年10月、念願か

みとよ創業塾

受講生の声

自治体が創業をバックアップする取り組みはとても良いですね。私が受講した当時、同様の取り組みは県内には三豊市ぐらいしかなかったから、すごいな三豊市って思いました(笑)



フードフーズ  
FooDoo's(豊中町)  
筒井まり子さん(左) 伊藤昂典さん(右)

もともと二人は会社員で、筒井さんは大阪でデザイン関係の仕事、伊藤さんは関東の大手企業で営業の仕事をしていました。今年9月、「デザインと食で毎日笑顔にしたい」と一念発起し、会社を辞めて筒井さんの実家のある豊中町で起業しました。

「三豊市で地盤を作りたいたいと、まずは商工会に行っ



て相談しました。いろいろと相談に乗ってくれて、本当に助かりました」と笑顔で当手を振り返る筒井さん。

「今は『食』に関わるデザインを中心に、海外向けのパンフレットや農家さんのロゴマーク、商品パッケージなどのデザインのお仕事を主に手掛けています。

香川県ではさまざまなデザインの相談を頂くので、都会での仕事より、

デザインの部分で関われる幅が広くなりました。新しいお仕事が来る度にワクワクしているんですよ」と起業した喜びを話してくれました。

仁尾町出身の辻さんは高校を卒業後、愛知県の芸術大学へ進学。商業デザインについて学びました。卒業後は同じ愛知県のデザイン会社に就職して、25年間、車の装飾デザインの作成に

資金計画についての講義は大変参考になりました。また、商工会やよろず支援拠点の皆さんにはいろいろと相談に乗っていただきました



デザイン&プリントファクトリー  
ソーラス(仁尾町)  
代表 辻伸昌さん

携わりました。

「高齢になった両親の今後を考え、Uターンして起業しました。長年培ってきた技術を生かして、県内では珍しい『家電のリメイクラッピング』をしています。お客様のご要望に合わせてデザインを提案させていただくこともあります。この冷蔵庫、元は本場にポロポロだったんですよ」と辻さん。ソーラス店内に入ると、カラフルに生まれ変わった冷蔵庫がお出迎えしてくれますよ。

事業を  
継続  
する



香川県よろず支援拠点  
専門家 豊田浩伸さん

三豊サテライト  
(香川県よろず支援拠点)

三豊サテライトで、商品開発・販路開拓の専門家として相談を受ける豊田浩伸さんにお話を伺いました。

「全国の中小企業・小規模事業者が経営上抱える課題に対応するため、昨年6月に経済産業省の中小企業支援策として、全国に、よろず支援拠点」が設置されました。本県では、(公財)かがわ産業支援財団に設置され、多種多様な課題に各分野別の専門家が無料で相談に応じています。

設置当初から、三豊市を

はじめとする西讃エリアの事業者からの経営相談が多くあり、より利便性を高めるため県内のサテライト1号として昨年11月に『よろず三豊サテライト』が設置されました。

相談日は月に2回で、毎回概ね4〜5件の相談対応を行っています。相談の内容は、創業や新規事業、商品開発、農工商連携に対する相談などです。また1回だけではなく複数回相談に訪れる継続的な相談対応が多いのも、このサテライトの特徴です。

事業者はさまざまな課題を抱えています。その課題

支援機関同士の  
連携が強み

「点」であるため、どこから手をつけてよいか分からず、悩んでいることが多いのです。我々の役目は、徹底的な課題のヒアリングを行い、「点」を「線」につなぎ、優先順位をつける事だと思っています。また指導内容においても、事業者の経験や事業規模、体制に応じた改善や支援施策の提案を行う『事業最適』を意識しています」と、豊田さんは言います。

企業支援は単一の支援機関でできるものではなく、複数の支援機関と連携する事で、より多面的な支援が可能となり、事業の課題に対し総合的に対応ができるというメリットがあります。

現状の三豊サテライトは行政・商工会・支援機関の連携支援の好事例になり、よろず支援拠点の活動において、全国的にも評価を得られています。

▼問い合わせ 産業政策課 ☎73・3013

